



目次

- 1) 巻頭言
- 2) 周産期精神保健の国際的な動向
- 3) 総会報告
- 4) 第1回 理事会議事録
- 5) 第2回 理事会議事録
- 6) 第4回日本周産期精神保健研究会
- 7) 第9回高知周産期こころの研究会
- 8) 事務局からのお知らせ

巻頭言 日本周産期精神保健研究会理事長 側島久典 (埼玉医科大学総合医療センター小児科客員教授)

1年以上に渡るコロナ禍は依然として収束に向かう気配が確認できず、わが国全体の活動そのものに極めて多大な影響をもたらしています。このような環境下において、子供たち、家族のこころの健康に大きな影響が及びつつあることが多方面から聞かれる中、周産期精神保健の重要性がますます認識されています。

周産期という場合は、人と人の接触が極めて大切な分野です。妊娠、分娩、授乳、日々の新生児、乳児へのケア、これまでなら、祖父母と同居することで世代から世代への様々な日常のケアポイントとそこに流れる歴史、考え方を修得できたことが、決定的に断ち切られる毎日になってきていると思われれます。

正期産児をはじめ、NICUに入院となったこどもたちへの面会、退院に向けての指導など、実際に触れて指導ができる、受けられる機会に極めて大きな制限がかけられることになっています。退院後のフォローアップの場合、長期入院後の小児在宅医療の現場でも、日常生活での移動、人との接触の機会は減り、リハビリなどの訓練の機会も減る中、予想外の体重増加を来たす子供たちが目立つようになりました。しかし、このような中でデイケアに通う子どもは安定した体重を維持しており、如何に

日々の対話を含めた運動が効果を発揮しているかを知ることとなりました。

このような状況の中、家族と子どもたちの目の輝きを取り戻すべく、様々な働きかけがなされています。オンラインを利用した入院児とのビデオ面会、そこに多くのスタッフからのメッセージなどを交えて、今まで以上に子どもの画像を共有して新しい形のコミュニケーションが生まれつつあります。直接の肌と肌の接触はない中、目と目、声によるコミュニケーションを有効に生かして行ければと願うばかりです。

出産、入院を終えて自宅に戻れば、今まで以上に家族と赤ちゃんが一緒に過ごす時間が増え、それゆえの悩み、ストレスが増えるのかもしれない。このような中、第4回日本周産期精神保健研究会の開催を企画して下さった聖路加国際病院山中美智子先生に心より感謝を申し上げるとともに、本研究会を創立の主旨、「成長・発達し、常に変化していく赤ちゃん和家人の関係性を重視し、赤ちゃん和家人をはじめ周産期に関わるすべての人のこころの健康を支える」をもう一度このような環境の中、できることを皆さんで考え、進めてゆきたいと思い、巻頭言とさせていただきます。

周産期精神保健の国際的な動向

会員 岩山真理子

新型コロナウイルスの流行は、周産期の親子の出会いや生活に変化をもたらし、長期的な親子関係や精神保健等への影響が懸念されています。国際的にも、WHOは、出産後の母子は、新型コロナウイルス感染にかかわらず、一緒にいられるようにすべきであると COVID-19 臨床管理指針¹⁾ で述べており、英国の産婦人科学会である the Royal College of Obstetricians and Gynecologists は、2020年3月には、産後、母親と赤ちゃんは一緒に過ごせるとよいとし、ボンディングとアタッチメントへの影響の心配を伝えています²⁾。

Bowlby, Winnicott, Robertson らによって早期の親子の関係の構築の重要性が示された歴史を持つ英国では、周産期のみならず、Everyone's business³⁾(皆に重要なメンタルヘルス)として、国全体でメンタルヘルスの悪化予防やケアに取り組んでいます。英国政府は、2020年5月には、COVID-19 パンデミック時に人々のメンタルヘルスをサポートするコミュニティプロジェクトに、追加資金の500万ポンド(約7億円強)を設定したと精神保健大臣が発表⁴⁾、同年11月には、財務大臣が、パンデミック時のメンタルヘルスサービスをサポートするために5億ポンド(約700億円)の資金提供に向けて支出の見直しを発表しています⁵⁾。北アイルランドでは、2021年1月に保健大臣が、新しい専門家による周産期精神保健サービスの開発のための470万ポンド(約7億円弱)の資金を承認したと発表しており、メンタルヘルスへの支援が強化されています⁶⁾。

英国で1980年に結成された周産期精神保健の国際的な学会である、The International Marcé Society for Perinatal Mental Health (通称 Marcé Society: マルセ・ソサエティ)のホームページには、2020年に COVID-19 のページが追加され、周産期への影響やケアの提言、最新の学術論文、臨床家や患者向けの情報などが発信されています⁷⁾。Marcé Society は、多職種が集まる学会であり、周産期の女性やその乳幼児、パートナーの精神保健に関する研究の促進と普及を目的としています。2020年に開催された、2年に1度の学術集会は on-line で開催され、世界各地から多くの参加者が集まりディスカッションを交わしました。また、常にメーリングリストでは、最新の研究や臨床についての意見が飛び交っています。ホームページでは、文献、学会誌、社会資源、教育講演動画等の情報が提供されています。Marcé Society では、国や地域、使用する言語でまとまった Regional Group が存在します。Japanese Regional Group は、2016年に設立され、日本語での会員との情報交換や国際交流の促進を目指しています⁸⁾。

アメリカでは、乳幼児精神保健に関わる5団体により、遠隔で家庭訪問を行うためのハンドブックを作成しています⁹⁾。感染予防で人との接触を避ける中で、精神面のサポートをいかに続けて提供していくかは、周産期や子どもに関わる専門家の関心の的ですが、ハーバード大学、ボストン子ども病院の小児科医の Brazelton らにより開発された新生児行動観察 (Newborn Behavioral Observations System: NBO) でも、誕生から3か月までの親子の観察を、スマホなどを使って遠隔で行うことも取り入れ、家にいながら親は専門家と一緒に赤ちゃんの観察を楽

しみ、赤ちゃんの行動を発見していく中で親子関係の促進が行えるよう検討されています。専門家はトレーニングを受けて NBO を臨床活用しています。NBO のトレーニングと NBO の基となった新生児行動評価 (Neonatal Behavioral Assessment Scale: NBAS) のトレーニングは日本でも開催されており、感染予防のため現時点では on-line で開催されています¹⁰⁾。

カナダでは、COVID-19 のパンデミック時に妊産婦のうつ病や不安が大幅に増加していることが調査で明らかになった報告が出されました。その中で、身体運動が、妊娠中のうつ病や抑うつ症状を軽減することがみられ、健康的なメンタルヘルスと関連している可能性を示唆しています¹¹⁾。

日本においても、COVID-19 による感染予防対策を行いながら、同時に、親子の関係性構築に必要な要素を省かずに、周産期における精神保健の質の高いサポートを提供できるよう、今後も国際動向もみながら目の前の親子や家族の支援を考え続けていきたいものです。

参考文献

- 1) World Health Organisation. Clinical management of COVID-19. Interim guidance. Published 27 May 2020. <https://www.who.int/publications/i/item/clinical-management-of-covid-19>
- 2) The Royal College of Obstetricians and Gynaecologists (RCOG) Coronavirus (COVID-19) Infection in Pregnancy, Information for healthcare professionals, Version 12: Published Wednesday 14 October 2020. <https://www.rcog.org.uk/globalassets/documents/guidelines/2020-10-14-coronavirus-covid-19-infection-in-pregnancy-v12.pdf>
- 3) The Maternal Mental Health Alliance, Everyone's Business campaign. <https://maternalmentalhealthalliance.org/campaign/>
- 4) 29 May 2020 Press Release, GOV.UK: £ 5 million funding given to mental health community projects <https://www.gov.uk/government/news/5-million-funding-given-to-mental-health-community-projects>
- 5) 21 November 2020 BBC news "Spending Review: Chancellor to announce £500m for mental health" in England <https://www.bbc.com/news/uk-55031444>
- 6) 13 January 2021 the Department of Health website、英国政府ウェブサイト GOV.UK : "Swann approves Funding for New Perinatal Mental Health Delivery Model" for Northern Ireland <https://www.health-ni.gov.uk/news/swann-approves-funding-new-perinatal-mental-health-delivery-model>
- 7) Marcé Society ホームページ : <https://marcesociety.com/>
- 8) Japanese Regional Group ホームページ : <https://www.marcesociety-japan.com/>
- 9) Zero to Thrive, Michigan Medicine University of Michigan, Alliance for the Achievement of Infant Mental Health, STARFISH Family Services, Michigan Association for Infant Mental Health. Telehealth Service in Infant Mental Health Home Visiting. 2020年3月23日発行
- 10) NBO Japan : <https://www.nbo-japan.com/>
- 11) Davenport, M. H., Meyer, S., Meah, V. L., Strynadka, M. C., & Khurana, R. (2020). Moms are Not OK: COVID-19 and Maternal Mental Health. *Frontiers in Global Women's Health*.

総会報告

令和2年度日本周産期精神保健研究会総会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、書面開催いたしました。

＜令和元年度事業報告＞

1) 研究会事業

① 第12回地方セミナーは令和2年3月8日（日）に愛知医科大学にて開催予定であったが、COVID-19の感染拡大に伴い中止とした。

② 第4回日本周産期精神保健研究会は、令和2年10月31日（土）、11月1日（日）の2日間で、聖路加国際大学にて開催することが予定されていたが、COVID-19の感染拡大に伴い、中止とし、翌年度に延期することとなった。

③ 令和2年度日本周産期精神保健研究会総会は、令和2年11月21日（土）に開催された理事会にて、総会は書面審議とし、メールで配信し、2週間ほどの期日を設けて、オンラインで承認の手続きをとることが承認をされた。

2) 関連事業

第5回近畿周産期精神保健研究会は令和2年2月29日（土）3月1日（日）に開催が予定されていたがCOVID-19の感染拡大に伴い中止となった。また同日に開催され、当研究会が後援予定であった第1回近畿周産期こころのケア研修会も中止となった。延期が予定されていたが、現在、開催時期が未定であり、時期が確定次第、あらためて後援の手続きをとることとなった。

＜令和3年度事業計画＞

1) 第4回日本周産期精神保健研究会

会長：山中美智子

（聖路加国際病院遺伝診療部部长/女性総合診療部医長）

テーマ：「子（個）をはぐくむ多様な家族への支援」

当初予定の1年後をめどにプログラムの内容を変更しない形で、延期開催を行う。会場は聖路加国際大学とするが、COVID-19の状況が見通せないこともあり、オンラインでの開催を含めて検討をおこなっており、詳細が決まり次第、会員への案内・広報を行っていく。

2) 令和3年度日本周産期精神保健研究会総会

第4回日本周産期精神保健研究会内で行う。ただし開催方法や、期日によっては、今年度と同様書面審議の形をとることを含めて検討を行っていく。

3) 地方セミナー

病院を会場にしての開催は、COVID-19の状況下では見通しが立たないため、開催ができる状況となった段階で、中止とした愛知医大での開催を含め、検討をしていくこととなった。

4) その他事業

現状においては、会場に参加者を集めての地方セミナー等の開催が難しいため、会員への情報提供も含めて、可能な範囲での活動を行っていく。理事・会員より、各地で行われる周産期の精神保健にかかわる事業等についての情報を収集し、会員へ案内を行っていく。

＜令和元年度決算報告（資料1）＞

理事会にて、令和元年度の会計報告が行われ、監事の久保氏・船戸氏両名から問題がなかったことが報告され、決算について理事会にて全会一致で、承認をされた。

＜令和3年度予算案（資料2）＞

令和3年度の予算案が提示された。令和2年度の理事会はオンラインでの開催となっており、会場費の経費が掛からない形となっているが、令和3年度については例年通りで予算を立てている。予算案について理事会にて全会一致で承認された。

＜その他＞

- ・会員数の現況（令和2年新入会者4名、現会員数209名）

令和元年度日本周産期精神保健研究会会計報告

資料1

(2019年4月1日～2020年3月31日 単位:円)			
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,125,139	事務局手当	156,000
会費	324,000	通信費	26,884
第11回地方セミナー余剰金	2,922	事務消耗品費	46,517
		HP更新料	11,340
		会議費	64,718
		地方セミナーチラシ代(11・12回)	9,155
		第4回日本周産期精神保健研究会開催補助費	200,000
		次年度繰越金	937,447
計	1,452,061	計	1,452,061

上記のとおりであることを認めます。
2020年 9月 24日

監事

久保 実
船戸 正久

令和3年度日本周産期精神保健研究会予算(案)

資料2

(2021年4月1日～2022年3月31日 単位:円)			
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	950,000	事務局手当	156,000
会費	320,000	通信費	27,000
		事務消耗品費	45,000
		HP更新料	11,340
		会議費	65,000
		地方セミナー経費	30,000
		次年度繰越金	935,660
計	1,270,000	計	1,270,000

令和2年度第1回理事会 議事録

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況に鑑み、今年度第1回理事会の開催を中止し、書面をもって令和元年度事業報告を行い、今後の活動について協議した。

＜報告事項＞

1. 令和元年度行事報告

1) 第11回地方セミナー in 石川

日時：令和元年10月6日（日）13：00～16：30

会場：石川県立中央病院 会議室1

テーマ：周産期における多職種での家族支援

世話人：久保実（石川県立総合看護専門学校）

2) 総会

令和元年11月27日（水）11：30～12：00

第64回日本新生児成育医学会・学術集会会期中

3) 第12回地方セミナー

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

日時：令和2年3月8日（日）

会場：愛知医科大学

テーマ：家族と支援者におけるパートナーシップ

— 家族が家族になるために —

世話人：山田恭聖（愛知医科大学病院）

事務局：酒井玲子（愛知医科大学病院）

4) 関連事業

- ・第8回ぎふ周産期こころの研究会

日時：令和元年11月9日（土）

場所：岐阜大学サテライトキャンパス

テーマ：赤ちゃんとの別れ

あなたと生きた時間を慈しむ

- ・第5回近畿周産期精神保健研究会

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

日時：令和2年2月29日（土）～3月1日（日）

会場：大阪府立大学I-siteなんば

会長：隅 清彰（社会福祉法人石井記念

愛染園附属愛染橋病院 小児科）

メインテーマ：多職種で考えよう

母と子と家族の心に届く支援

- ・第1回近畿周産期こころのケア研修会

（近畿周産期精神保健研究会共催）

日時：令和2年2月29日（土）

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

- ・健やか親子21推進協議会

令和元年6月より推進協議会に入会

<審議事項>

1. 今年度の活動予定について

- 1) 令和2年度第2回理事会

11月頃オンラインで開催予定

- 2) 日本周産期精神保健研究会総会

書面審議となる可能性あり

2. 第4回日本周産期精神保健研究会（1年程度延期）

日時：~~令和2年10月31日（土）～11月1日（日）~~

会場：聖路加国際大学

会長：山中美智子

（聖路加国際病院遺伝診療部部长/女性総合診療部医長）

テーマ：「子（個）をはぐくむ多様な家族への支援」

3. 関連事業の予定

- ・ぎふ周産期こころの研究会の開催 未定
- ・第6回近畿周産期精神保健研究会（以下決まっていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、準備委員会も開かれないうまま、中止と決定）

日時：令和3年2月頃

会長：佐野博之（淀川キリスト教病院 新生児科）

4. 今後の活動について

新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて検討。

研究会として現状でできる活動があればぜひご提案いただきたい。

5. その他

現会員数209名

令和2年度第2回理事会 議事録

日時：令和2年11月22日（日）14：00～15：00

開催方法：Zoom meeting

出席21名、委任状提出7名により理事会は成立とし、会議の進行をおこなった。

<報告事項>

1. 理事について

渡部晋一理事の訃報が報告され、黙祷を行った。

<審議事項>

1. 事業報告

- 1) 令和2年度日本周産期精神保健研究会総会

事務局の永田より、書面会議を予定していることが報告され、理事会の議事を踏まえて総会資料を作成し、メールで配信。2週間ほどの期日を設けて、オンラインで承認の手続きをとることが承認された。

- 2) 関連事業について

昨年度、開催の後援および助成金について承認をえて2月に開催予定であった第1回近畿周産期こころのケア研修会についてオブザーバーで川野氏に参加いただき、経緯の報告を受けた。45名定員いっぱいの参加の申し込みがあったが、直前になって中止を決めたこと、当初は6月に予定していたが、再延期になっており、現在、開催の見通しが立っていないことについて説明が行われた。研修会の開催が正式に決まってから改めて連絡をいただき、再度、理事会にて後援、助成金について承認手続きをとり対応をすることが確認された。

2. 令和3年度事業計画

- 1) 第4回日本周産期精神保健研究会

会長：山中美智子

（聖路加国際病院遺伝診療部部长/女性総合診療部医長）

テーマ：「子（個）をはぐくむ多様な家族への支援」

当初10月31日（土）、11月1日（日）の2日での開催が予定されていたが、感染状況の拡大に伴い、中止となった。1年後をめどにプログラムの内容を変更しない形で、延期開催の予定であることが、会長の山中氏より報告が行われた。会場は聖路加国際大学とするが、COVID-19の状況が見通せないこともあり、オンラインでの開催を含めて検討をしていることも報告された。

シンポジムの先生方の予定も含めて日程を再調整し、シンポジウムについては、リアルタイムでの配信等も検討していること、詳細が決まり次第、広報を行っていく方向が確認された。

岩山理事から、開催日程検討の際に関連学会研究会開催日程を確認し、重複を避けるべきではないかと意見があった。事務局で集約し、日程調整の参考にさせていただく形をとることとした。

- 2) 令和3年度日本周産期精神保健研究会総会

第4回日本周産期精神保健研究会内で行う。ただし開催方法や、期日によっては、今年度と同様の形をとることを含めて検討を行っていく。

3) 地方セミナー

令和2年3月8日（日）に開催予定であった第12回地方セミナーの世話人の山田氏より今後についての見通しについて報告が行われた。準備ができた段階での急な中止であり、延期開催を模索したいが、会場が大学病院という性質上、COVID-19の状況下では見通しが立たないこと、今後あらためて検討をしていきたい旨、報告をされた。

4) その他事業

現状においては、会場に参加者を集めての地方セミナー等の開催が難しいため、会員への情報提供も含めて、可能な範囲での活動を行っていく方向が確認された。様々な事業がオンラインとなってきているが、現場では、ハイリスクな家族や、地域での支援が必要な妊産婦が増えてきている印象があることが高橋副理事長より提示された。

橋本氏、齋藤氏の両名からは、昨年度の理事会で家族の声を反映させるような企画など家族の会との連携を模索することとなり、慶応大学の有光先生を含めて、情報共有等を行ったことが報告された。当初、日本新生児成育医学会での企画を検討していたが、中止等となったこともあり、十分、検討が進んでいないことが報告された。有光先生が、ヨーロッパの家族の会の文章を翻訳され、家族の会に渡されており、本研究会でも共有可能か確認していただくことになった。

永井氏より、1月に行われる講演会の案内が行われ、高知での開催ではあるが、ハイブリッド式での開催を予定しているとのことで、会員にも広報を行うことになった。

北島氏より、日本乳幼児精神保健学会が、FOURWINDSと統合され活動されることになり、周産期からの支援に注目をされるようになってきているが、周産期医療にかかわる立場の会員がまた少なく、ぜひ加わっていただきたいこと、また共有できる情報については、研究会にも提供する旨、提案が行われた。

また橋本氏より11月26日、27日と理事の沼田氏を会頭に日本虐待防止学会が開催され、周産期も広くテーマとして扱われており、情報提供をお願いするとよいのではないかと提案があり、沼田氏に、打診、確認をすることになった。

3. 令和元年度会計報告（資料1）

事務局より、令和元年度の会計報告が行われた。監事の久保氏・船戸氏両名から問題がなかったことが報告され、決算について全会一致で、承認をされた。

4. 令和3年度予算案（資料2）

事務局より、令和3年度の予算案が提示された。理事会費は、例年会場費等であり、今年度のようなオンライン開催となった場合は、経費はかからないことについても併せて説明が行われた。

予算案について全会一致で承認された。

5. その他

令和2年新入会者4名、現会員数 209名

第4回日本周産期保健研究会開催のお知らせ

第4回日本周産期精神保健研究会
Japan Association of Perinatal Mental Health

子(個)をはぐくむ多様な家族への支援

2021年 10月30日(土)
ハイブリッド開催 & 聖路加国際大学
〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1
東京メトロ 日比谷線 築地駅 3番出口または4番出口(徒歩3分)
東京メトロ 有楽町線 新富町駅 6番出口(徒歩5分)

会 長: 山中美智子 (聖路加国際病院 遺伝診療部 部長/女性総合診療部 医長)
準備委員会委員長: 齋藤圭介 (聖路加国際病院 女性総合診療部 副医長)
Web サイト: <https://2020pmh.net/>

シンポジウム
パネルディスカッション
教育講演
一般演題

事務局
聖路加国際病院女性総合診療部
〒104-8560 東京都中央区明石町 9-1
FAX: 03-5550-2343
E-mail: jspmh2020@luke.ac.jp

昨年10月31日～11月1日に開催予定だった第4回日本周産期保健研究会は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴って延期とさせていただいておりましたが、今年2021年10月30日（土）に開催することといたしました。

開催形式は、オンラインと現地での討論を併せたハイブリッド型を予定しております。テーマは予定していた通り「子（個）をはぐくむ多様な家族への支援」として、在住外国人、早産低体重児、自身ががんを抱える母親、先天異常を持って生まれた子どもの育児など、多彩な家族への支援のあり方や社会的養育についての課題などを取り上げることとしていきます。一般演題はオンデマンド形式での参加を予定しています。

鋭意、準備を進めてまいります。多くの方のご参加をお待ちしております。

テーマ：子（個）をはぐくむ多様な家族への支援

会 長：山中美智子

（聖路加国際病院 遺伝診療部 部長/女性総合診療部 医長）

準備委員会委員長：齋藤圭介

（聖路加国際病院 女性総合診療部 副医長）

会 期：2021年10月30日（土）

会 場：ハイブリッド開催&聖路加国際大学

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1

東京メトロ 日比谷線 築地駅 3番出口または4番出口（徒歩3分）

東京メトロ 有楽町線 新富町駅 6番出口（徒歩5分）

Web サイト：<https://2020pmh.net/>

事務局：聖路加国際病院 女性総合診療部

〒104-8560 東京都中央区明石町9-1

FAX：03-5550-2343

E-mail：jspmh2020@luke.ac.jp

第9回高知周産期こころの研究会



日時：令和3年1月31日（日）9:00～12:00
 開催方法：zoomオンラインセミナー
 テーマ：いま、子を産み、育てると言うこと
 ～妊娠と出産を取り巻く環境～

この度、第9回高知周産期こころの研究会をzoomオンラインセミナーとして開催致しました。今回は「妊娠と出産を取り巻く環境」をテーマに2つの講演会とフリーディスカッションを企画しました。出生率低下、晩婚化、出産の高齢化が叫ばれるなか、コロナ禍が追い打ちをかけ、子を産み育てる環境には明るい話題が少ないのが実情です。こどもを産み育てることは人間および社会において明るい材料であるべき最重要項目ですが、様々な乗り越えるべき障壁があることも事実です。

ひとつめの講演として、出産ジャーナリストの河合 蘭さんに、『「産む」と「生まれる」からみた日本、そして私たちひとりひとりの命』と題して現在の日本の出産事情についてお話を頂きました。妊娠や育児に関わる女性の行動への社会的評価の低さから妊娠や子育ての際に「周囲に迷惑をかけないように」行動せざるを得ない日本の状況や、お産をするという営みが一般の方々に拡がりにくくなっている環境に、妊娠したいと思えなくなっている理由があるのでは無いかと

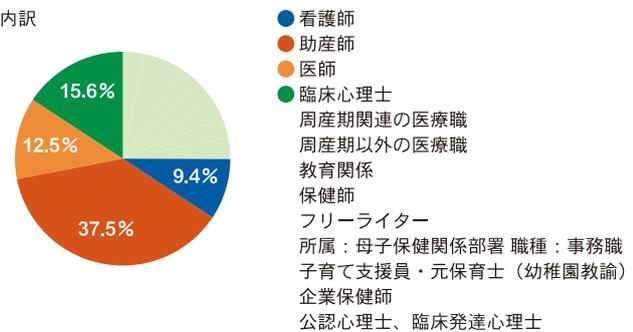
いう問題提起を頂きました。

ついで、行政の立場から『高知県における周産期・母子保健施策の動向』と題し、主に妊娠・出産・育児における環境づくりについて、高知県健康対策課課長である江崎治朗さんからお話を頂きました。妊娠中、産後女性のケアや育児へのサポート体制は実はかなり細かく整ってきていること、しかし施策の周知や利用者がアクセスしやすい環境は十分整っているとは言えない現状と課題を、スウェーデンのネウボラと比較しながら分かりやすくお話し頂きました。講演の後のディスカッションでは、お産という大切な営みを語り継いでいく事の大切さや、性教育をより身近な「いのちの教育」として周知していく必要性などが熱く語られました。

参加された皆さんが妊娠と出産を取り巻く環境について情報共有出来、それぞれが出来ることを考えるきっかけになればと願っています。

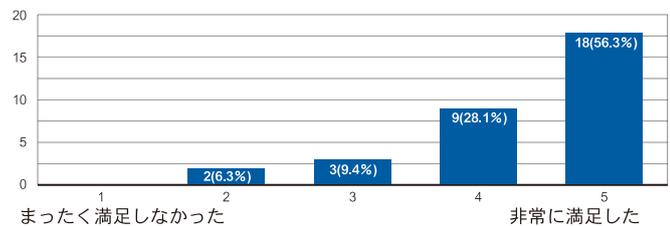
永井立平（高知医療センター 産科 科長）

参加者内訳



会の内容にはどのくらい満足されましたか。

32件の回答



事務局からのお知らせ

1. 年会費納入のお願い

令和3年度の会費納入のための振り込み用紙を同封させていただきます。大変お手数ですが、お振り込みくださいますようお願いいたします。前年度まで未納がある方にはあわせてご案内いたしました。3年未納で退会となりますのでご注意ください。なお事務合理化のため、「振込金受領書」を会費領収書に代えさせていただきますのでご了承ください。

* 令和3年度会費 2,000円
 【振込先】郵便振替口座：口座番号00800-7-206686
 口座名称：周産期精神保健研究会

2. 会員情報について

地方セミナー・総会等のご案内をメールで配信しています。ご登録いただいている会員情報に変更がある場合は、事務局までご一報ください。

【メール】 pmhjimukyoku@gmail.com

【HP】 <http://www.shusanki-seishinhoken.com/>お問合わせ/

（郵便局以外の金融機関からのお振込の場合）

銀行名：ゆうちょ銀行
 店名：〇八九店（ゼロハチキョウ店）
 預金種目：当座 口座番号：0206686
 口座名称：周産期精神保健研究会